

認知症センター

(三重県基幹型認知症疾患医療センター)

■ スタッフ

センター長	富本 秀和
副センター長	佐藤 正之
医師	木田 博隆

医師数	常 勤	2 名
	併 任	0 名
	非常勤	0 名

三重県基幹型認知症疾患医療センター

コメディカル	保健師	1 名
	精神保健福祉士	1 名
	言語聴覚士	1 名

三重大学医学部 認知症医療学講座

助教 田部井賢一

■ 認知症センターの特色

認知症患者は全国で 400 万人を超え、平成 25 年末に国全体での緊急対策を要する国家プロジェクトに格上げされています。認知症センターはこのような医療環境の変化に対応すべく活動を行っています。センター発足は、平成 25 年 9 月で専任医師は 2 名が在席しています。同センターは、平成 22 年に設立された医学部認知症医療学講座、同 24 年に三重県の委託を受け大学病院内に設置された三重県基幹型認知症疾患医療センターの中核に位置

づけられ、中勢地域を中心にして、県下全域の認知症診療の拠点として活動しています。

■ 体制と実績

1. もの忘れ外来

新患外来を（火）（金）、再診外来を（月）（水）の午後に行っています。認知症の診断は詳細な病歴と日常生活の情報が不可欠なため、患者と家族に念入りなインタビューをいたします。そのため新患外来は完全予約制とさせて戴いています。院内コンサルテーション、かかりつけ医からのご紹介、患者・家族の当外来受診希望がそれぞれ 3 分の 1 ずつを占めています。診断と初期治療の導入が図られた後は、基本的にはかかりつけ医に逆紹介し、継続診療をお願いしています。

認知症はひとつの病気ではなく、初期の鑑別診断が重要なため、脳 MRI、神経心理検査、必要に応じて SPECT などの核医学検査を行います。平

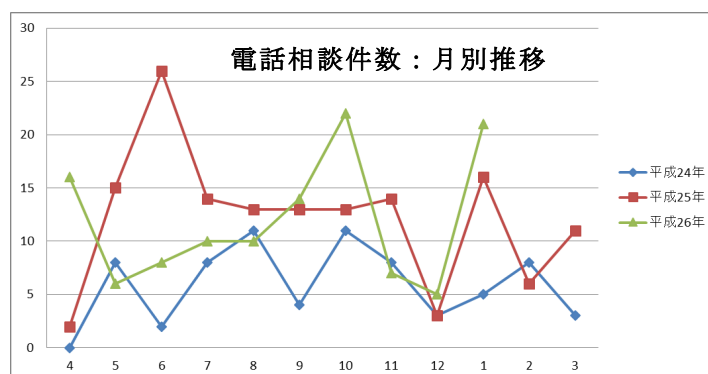
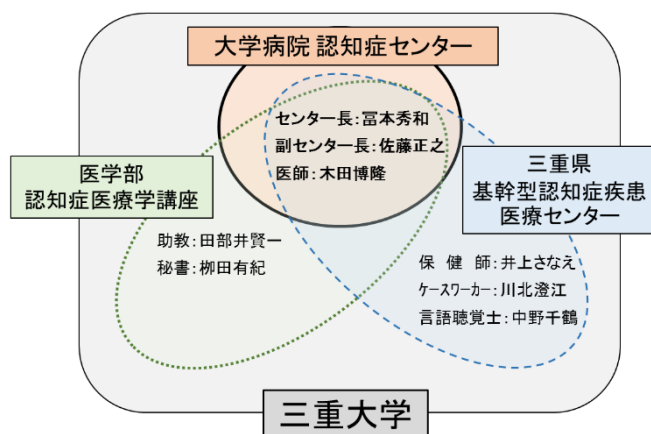
もの忘れ外来担当表

	月	火	水	木	金
午後	木田 再来)	佐藤 新患)	佐藤 再来)	休診	木田 新患)

成 26 年度は百数十名の新患をお迎えしました。院外からの紹介では、意味性認知症や進行性非流暢性失語症など、専門的知識の必要な症例が多く含まれています。

2. 電話相談窓口

保健師、精神保健福祉士、言語聴覚士が毎日、専用回線での相談業務を行っています。相談件数は、開設年の平成 24 年度が 71 件、25 年度は 146 件、26 年度も 1 月末までで 119 件の相談を頂いております。相談内容は、受診や療養相談に関することが多く、お話が 1 時間に及ぶこともしばしばです。具体的な情報提供やアドバイスだけでなく、介護者の



利用する契機となったり、毎週患者・家族、スタッフが顔を合わせることで症状の安定や変化の早期発見に繋がっています。

6. 「脳健康見える手帳」(三重県認知症連携パス)

厚生労働省が定めた「認知症施策推進5ヵ年計画(オレンジプラン)」では、第一項目に認知症ケアパスの策定があげられ、平成27年度からの運用が求められています。当センターは、三重県医師会、三重県と協力して「三重県認知症連携パス(脳健康見える手帳)」を作成しました。認知症の初期診断からフォロー、療養・介護に至るまで、あらゆる職種のひとが全経過で使用可能です。また、お薬手帳を収納するケースも備えており、これさえあれば認知症の診療・ケアに必要な情報がすべてわかるまさに“オール・イン・ワン”の冊子です。平成25年には1,000部、26年度は5000部を印刷し、県内



の主要病院、認知症疾患医療センター、認知症専門医、サポート医、包括支援センター、行政窓口などへの配布を開始しております。冊子の内容は三重県基幹型認知症疾患医療センターの

ホームページから無償でダウンロードできます。

7. 啓発・普及・調整活動

現在、三重県には二次医療圏ごとに認知症疾患医療センターが4箇所、設置されています。しかしその認知度は低く、三重県が施行した調査によると、認知症疾患医療センターという名称を知っている県民は1割にも達しません。当センターは三重県基幹型認知症疾患医療センターを受託しており、「認知症疾患医療センター連携会議」を開催し、情報や各地域の抱える課題の共有に努めています。また、認知症やセンタ

そのもの忘れ、病気!?

認知症疾患医療センター

に相談を!

東員病院
☎ 0594-41-2383

三重大学医学部附属病院
☎ 059-231-6029

三重県立こころの医療センター
☎ 059-235-2125

松阪厚生病院
☎ 0598-29-4522

熊野病院
☎ 0597-88-1123

- ◆もの忘れがひどい。
- ◆手際が悪くなった。
- ◆理解が悪くなった。
- ◆性格が変わった。

ーの存在を県民に知ってもらうために、様々な講演会や市民公開講座を企画するとともに、ポスターを作成して啓発活動を行っています。

■ 今後の展望

現在、認知症患者は全国に462万人おり、2025年には700万人を超えると予想されています。少子・超高齢化を迎える本邦にとって認知症は、医療だけでなく社会、経済の喫緊の課題です。「いずれ認知症になるなら三重県民でよかった」と言って頂けるように、一般住民を含む関係各位と協力しながら体制づくりを進めて行きたいと思えます。

 <http://www.hosp.mie-u.ac.jp/> (ホームページ)